

【オープニング・イベント「フロンティア21」開催内容】

時 間	プログラム	内 容
10:30～10:35	理事長挨拶	『中部地区のエレクトロニクス産業の振興に関して』 中部エレクトロニクス振興会 理事長 萩原義昭氏
10:35～10:45	ES構想紹介	『エレクトロニクス・スクエア構想のご案内』
10:45～11:35	【特別講演】	『ものづくり産業の展望と課題 ～デジタル社会の実現について～』 中部経済産業局 産業部 製造産業課 課長 片桐祐子氏
<p>日本を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大のみにとどまらず、気象変動などのグローバル危機の深化など、近年我が国ものづくり産業のサプライチェーンのリスクとなる「不確実性」は高まっている。</p> <p>このような状況下の中、企業の生産性の向上と地域全体の付加価値向上に向けて、当地域の経済構造の成長を持続できるものへ転換していくことが重要。デジタル化やカーボンニュートラルなど大きな変化が速いスピードで進展していく中、当地域の基幹産業である自動車関連産業を始めとするものづくり産業の果たす役割は大きく、新規領域への挑戦や新たなサービスの創出などに果敢に取り組み、自らを変革していくことが求められている。</p> <p>本セミナーでは、ものづくり産業の現状や課題、デジタル化推進の必要性など経済産業省の取組や施策をご紹介します。</p>		
12:00～13:00	昼休憩	
13:00～14:03	講演①	『データサイエンスは(ニーズ×データ×AI) →価値創造を実現できるか』 鈴鹿医療科学大学 医用工学部 医療健康データサイエンス学科 学科長・教授 鶴岡信治氏
<p>データサイエンスは、価値創造のツールとして注目されているが、データの真意を読み解く能力と新しい価値観を持った人材育成がキーポイントである。講演では、SDGs と Society5.0 を実現するデータサイエンス、価値創造に向けたデータサイエンス、次世代の人材育成に必要なデータサイエンスについて私見を述べる。</p> <p>SDGs と Society5.0 は日本の将来を見据えた重要な目標である。これらの目標の中で将来の産業に大きな影響を与える目標に絞り、現在のデータを示しながら、将来展望を述べる。次に価値創造に向けたデータサイエンスでは、ドイツのインダストリー4.0 とアメリカのインダストリアル・インターネットについて、データサイエンスの研究者の視点から解説し、日本の目指すべきデータサイエンスの方向性を紹介する。そして、最後に次世代の人材育成においてデータサイエンスは不可欠であることを解説する。</p>		
14:05～15:22	講演②	『MBD が実現する高度な擦り合わせ開発』 マツダ(株) シニアイノベーションフェロー 人見光夫氏
<p>日本は労働生産性が低いと言われて久しい。内燃機関を例に欧州との差異を見ると、欧州は産学官が強固な連携関係を築いており協調領域を広く持って進めている。一方日本はすり合わせが得意と言われてきたが実は横の連携は希薄である。この問題意識からAICE や TRAMI という内燃機関やトランスミッションの技術組合が設立され業界内の横の連携が始まりつつある。さらにつながりを強くするために業界全体で MBD に注力しようという機運が盛り上がり経産省の後ろ盾もあり MBD 推進センターの設立に至った。MBD に取り組むことの効能及び MBD 推進センターの果たす役割等について説明するので、ぜひ意義を感じていただきメンバーとしての参加を検討していただきたい。</p>		
15:25～16:43	講演③	『電動化で大きく変わる熱環境 ～熱分離と熱伝達の両立～』 デンソー(株) 電子 PF ハードウェア開発部(総合監理・電気電子) 担当部長 神谷有弘氏
<p>車載システムは、これまでのエンジン制御や空調制御といった制御対象毎のシステムから先進安全や電動化といった統合機能でのシステムに変化してきている。それに伴って各機能の再配置や集積化が起り、積み上げてきた経験値やノウハウが次世代に活かさないケースが多くなってきている一方、製品を早く世に出すことの重要性は一層高まっている。</p> <p>そこで、手戻りを防ぎ速攻開発を実現するためには、より本質的なメカニズムに基づいた開発課題の解決手法が鍵であり、特に高性能化と集積化に起因する熱マネジメント対策の成否が失敗しないシステム開発の鍵となっている。</p> <p>本セミナーでは、講師のデンソーにおける 40 年に渡る経験に基づき、電子システムの開発時に避けられない『熱マネジメント』のポイントを「熱伝達と熱分離の両立」の観点で、そのメカニズムと応用例を交えて解説する。</p>		